



現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

## 会長メッセージ

**当** 会は最古の歴史を有する海外稲門会の一つですが、堅苦しい感じもなく家族、独身者、既婚者関係なく自由に楽しめる雰囲気大切にしています。現在はパンデミックの影響で少人数が少なくなっていますが、懇親会などの単独イベントに加えて早慶合同イベント(ゴ

ルフ、BBQ、音楽鑑賞会、パーティー)なども定期的に開催しており、「シカゴ在勤中は稲門会でシカゴライフを楽しめた」という、脈々と続くコンセプトを大事にしながら、イベントを企画しています!

平 章人(1995年理工)

## 会員からのメッセージ

**昨** 秋(2022年)のシカゴ赴任当初は、新生活の準備などを稲門会の方々に助けてもらいました。今振り返れば、稲門会の存在は新生活における物理的なサポートだけでなく、心のよりどころだったと感じています。先日(23年3月)は、稲門会のお誘いでWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)決勝戦をスポーツバーで観戦しました。手に汗握る日米対決はとても感慨深く、良い思い出です。シカゴ稲門会に出会えたおかげで、充実したシカゴ生活を送ることができています。

繁藤 勇人(2003年社会学)

**在** シカゴも四半世紀近くなり、還暦も過ぎました。稲門会の集いで校歌・応援歌を歌う時、自然と思い浮かぶのは、学生時代の自分、4畳半の下宿、先輩・友人たち、神宮球場、高田馬場駅などです。まさに「心のふるさと われらが



2022年6月、早慶ゴルフで楽しんだ後の1枚

母校」の心境です。日本から遠く離れたシカゴで稲門会に参加すると「集り散じて人は変れど」を実感しますが、毎回校友の方々と日本語で親しくお話できることは格別です。シカゴ稲門会の存在に感謝です。

白井 久恵(1981年商学)

**早** 稲田を卒業して少したちますが、今はシカゴで日系企業を主な顧客とする法律事務所まで弁護士をしています。シカゴに来て間もないですが、稲門会を通して日本人コミュニティとつながることができ、すごく感謝しています。仕事をする中でも、早稲田時代のつながりが思わぬところで助けになり、早稲田のネットワークの広さにはいつも驚かされています。コロナ禍で会員数も減少してしまいましたが、コロナ禍以前の活気を取り戻したいと思っています。

中山 アリーシア 怜香(2017年法学)

**私** は2019年末に家族とともにシカゴに転居しました。当初は米国に存分に浸りアメリカナイズしようと意気込んでいましたが、徐々に日本とのつながり、気楽に付き合えるコミュニティが必要と感じるようになり、稲門会に参加しました。異国の地で早稲田卒という共通のアイデンティティーの下に集まったメンバーとは共通の話題が多く、なかなか出会うことのない在数十年という先輩方もおり、とても貴重な経験になっています。

立平 玲央(2010年商学)

## シカゴ稲門会について

恒例行事として加わっています。

諸先輩方が築き上げてきた長い歴史を誇る当会を次世代に引き継ぎ、校歌3番「仰ぐは同じき理想の光」とあるように、シカゴのコミュニティで早稲田卒業生として理想高く、社会貢献していきたいと考えています。

ダン 奈津子(1984年教育)



2022年10月、ハロウィーンに開催されたボウリング大会

## シカゴの魅力

アメリカ中西部のちょっとのんびりとした雰囲気を楽しめます。シカゴにはご当地グルメとして、圧倒的ボリュームのシカゴピザがありますので、お越しの際にはおなかをすかして、ぜひチャレンジしてみてください。

館岡 浩志(1994年人科入学)



(上) 建築で有名な街シカゴ。(左) 名物のシカゴピザ。分厚い!

**当** 会は1952年、日本がまだ敗戦後の復興途上にあり、サンフランシスコ平和条約が締結された翌年に発足しました。2023年には設立71周年を迎えます。明治・大正期に卒業された校友が会員だった設立当時を振り返りますと、当会の歴史の長さを感じ深く思います。

1957年に島田孝一6代総長、88年に竹下登総理、99年には小淵恵三総理をお迎えし、それぞれ盛大に歓迎会が開催されました。会員数は日系企業の中西部進出が最盛期であった1990年代には120人以上に達していました。しかし、バブル経済の崩壊、リーマン・ショックの影響、そしてコロナ禍を経て、現在は40人余りとなっています。

当会は総会、新年会、忘年会そして家族で集うイベントを開催し、会員相互の交流を図るとともに、他校との交流にも力を入れています。早慶ゴルフ対抗戦は1970年に第1回が開催されて以降、恒例行事となっています。現在は、早慶合同ピクニックとラビニア音楽祭の集いが新たな

「**摩** 天楼」発祥の地として知られるシカゴは、米国のほぼ中央に位置し、交通の要所として、製造業・食品加工業の盛んな工業都市として発展してきました。世界で5番目に大きな湖であるミシガン湖に面しており、強い季節風から「Windy City」とも呼ばれます。冬の寒さは厳しく力氏0度(摂氏マイナス18度)を下回る日もありますが、その反面、夏は湿度の低い快適な天気続き、さまざまな野外イベントや水浴ならぬ湖水浴が楽しめます。

全米有数の文化の街でもあり、シカゴ美術館は世界屈指の印象派コレクションを所蔵し、シカゴ交響楽団は世界最高峰の楽団の一つとされています。スポーツでは野球のCubs、バスケットボールのBullsと世界中にファンがいる人気チームがあります。

日系企業の大半は空港近くのシャンパーグに拠点を構え、日本人も多くが郊外エリアで暮らしています。ダウンタウンほどの喧騒もなく、